

歯と歯周組織の発生

歯と歯周組織の発生まとめ

- ・ 歯の発生は胎生6週、胎長10-13mmの時期に始まる
- ・ このとき将来歯列となる部分の口腔粘膜上皮が増殖・肥厚して歯堤を形成し、歯の原基である歯胚が形成される
- ・ 歯胚は経時的には蕾状期、帽状期、鐘状期を経て発育する
- ・ 歯胚を組織学的に観察すると上皮由来であるエナメル器と間葉由来の歯乳頭、歯小囊からなる
- ・ エナメル器からはエナメル質が、歯乳頭から象牙質・歯髄が、歯小囊からはセメント質、歯根膜、歯槽骨が最終的に形成される。硬組織の形成は、象牙質、エナメル質、セメント質の順に開始される

口蓋突起

齒胚

舌



帽状期歯胚



舌

唇溝堤

歯胚

下顎骨

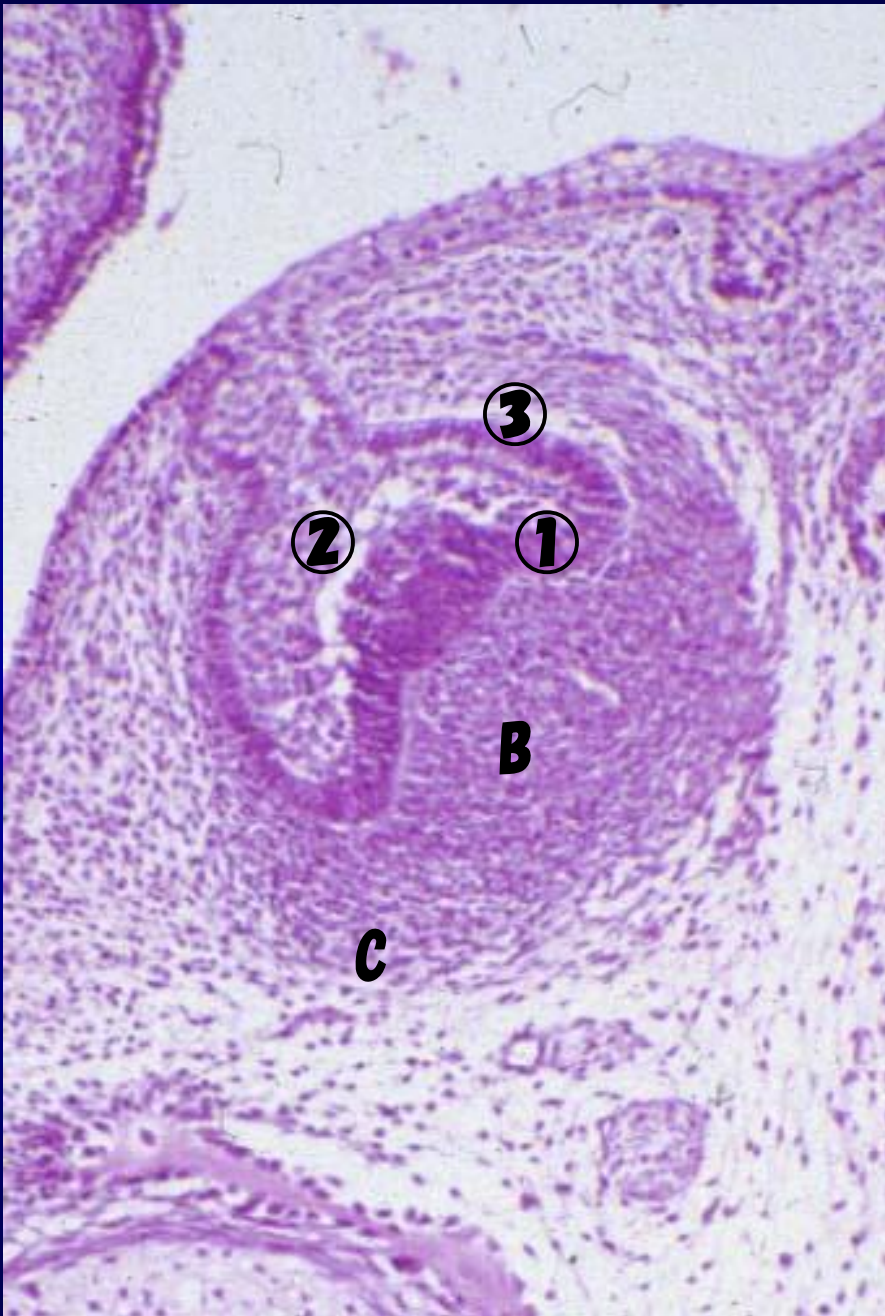
メッケル軟骨

A エナメル器

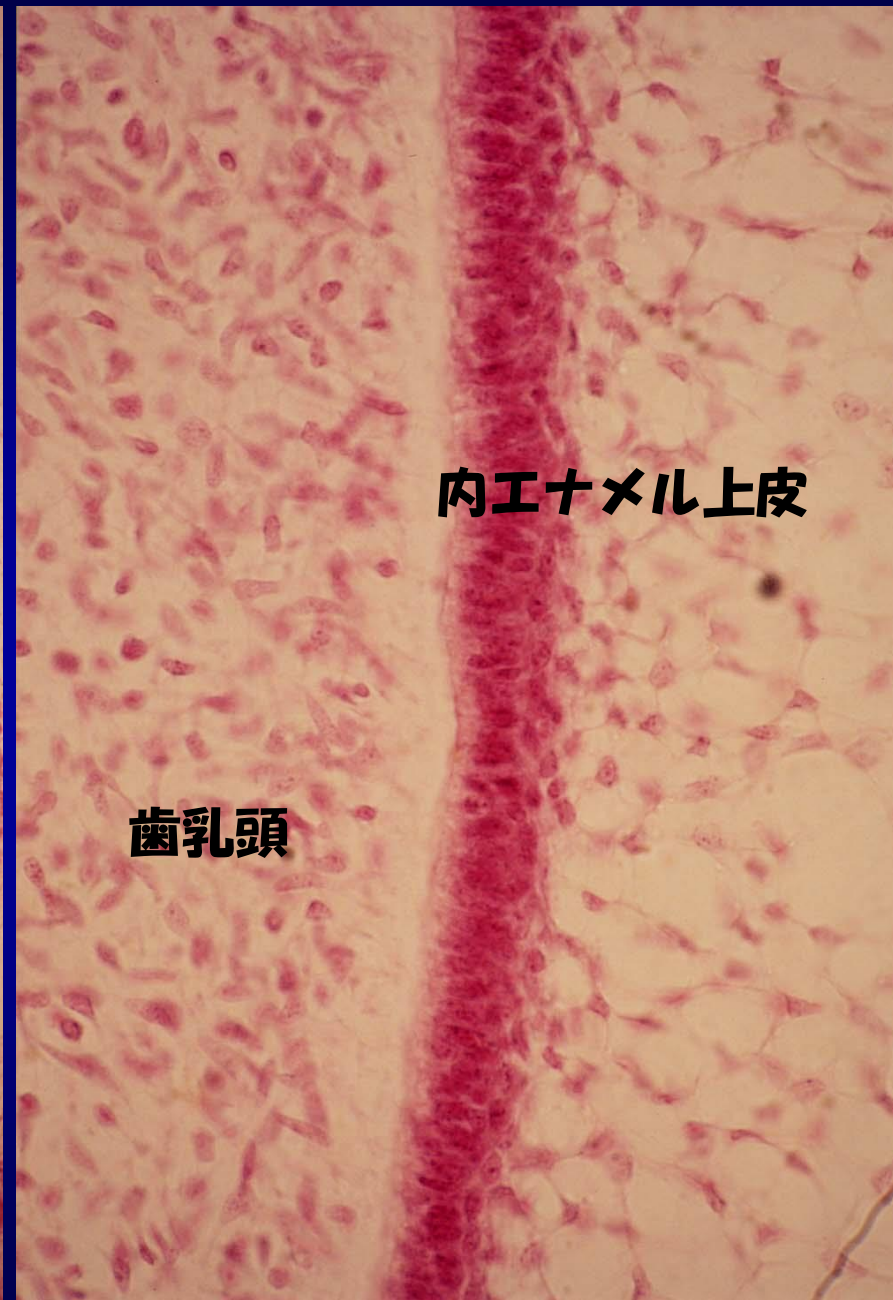
- ① 内エナメル上皮
- ② エナメル髓
- ③ 外エナメル上皮

B 歯乳頭

C 歯小囊

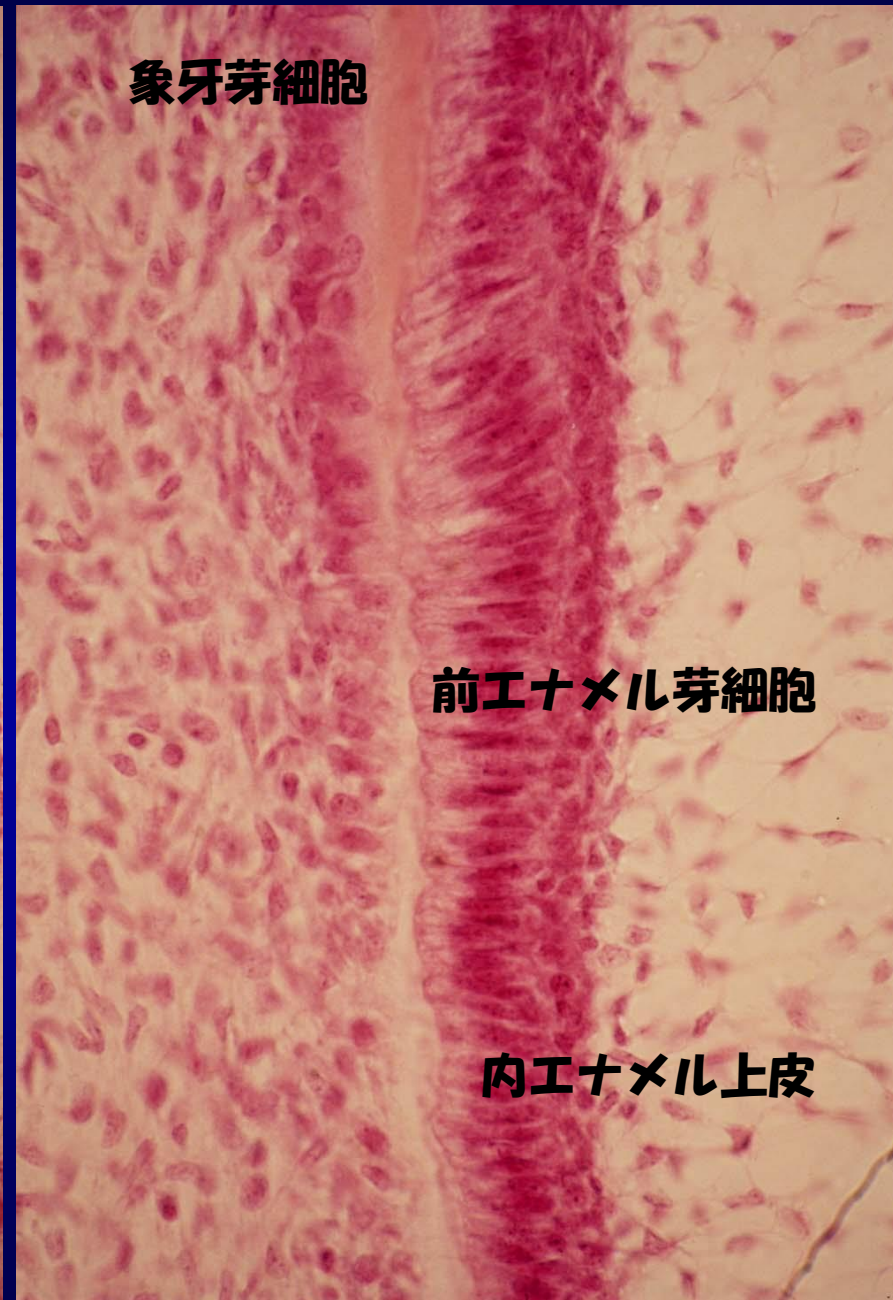






内エナメル上皮

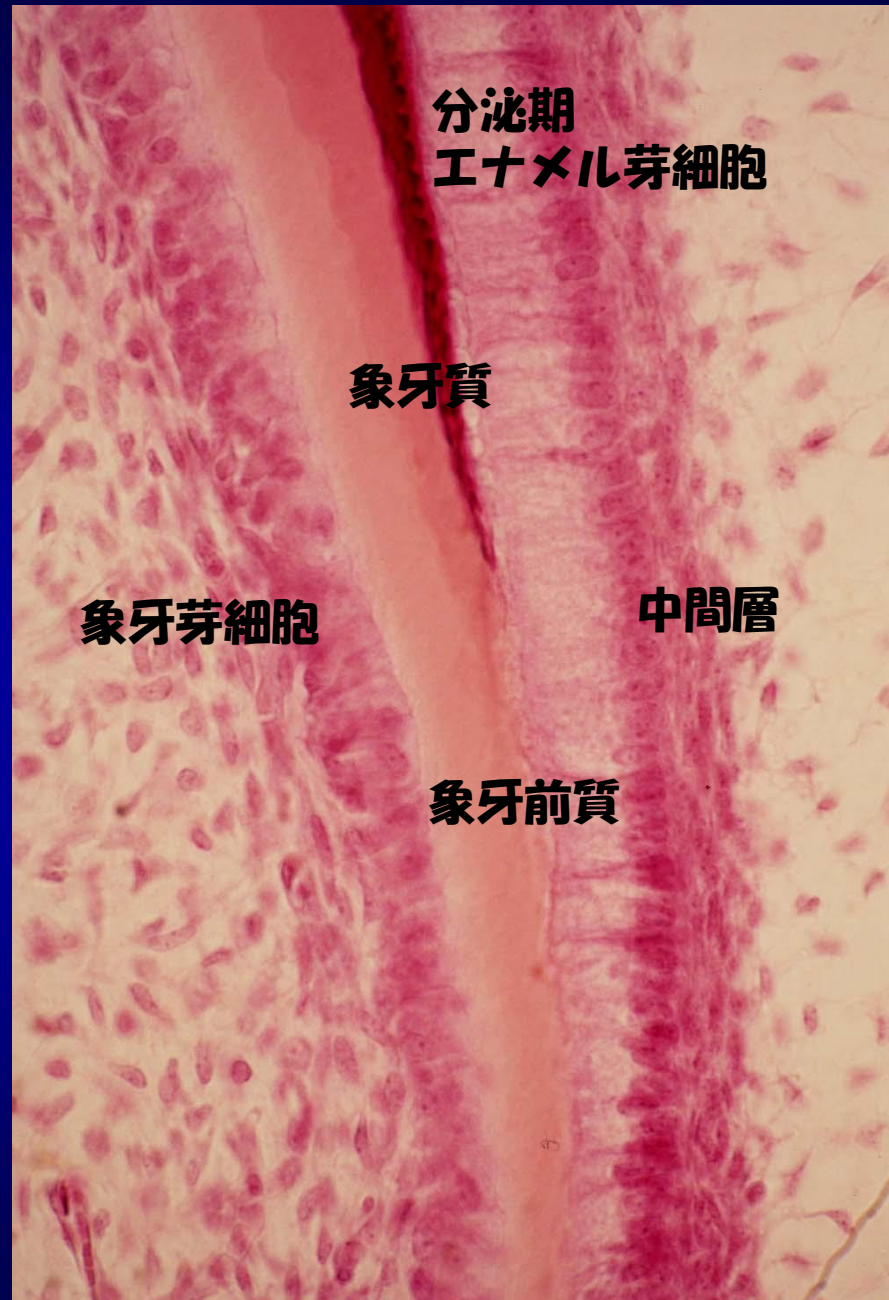
歯乳頭

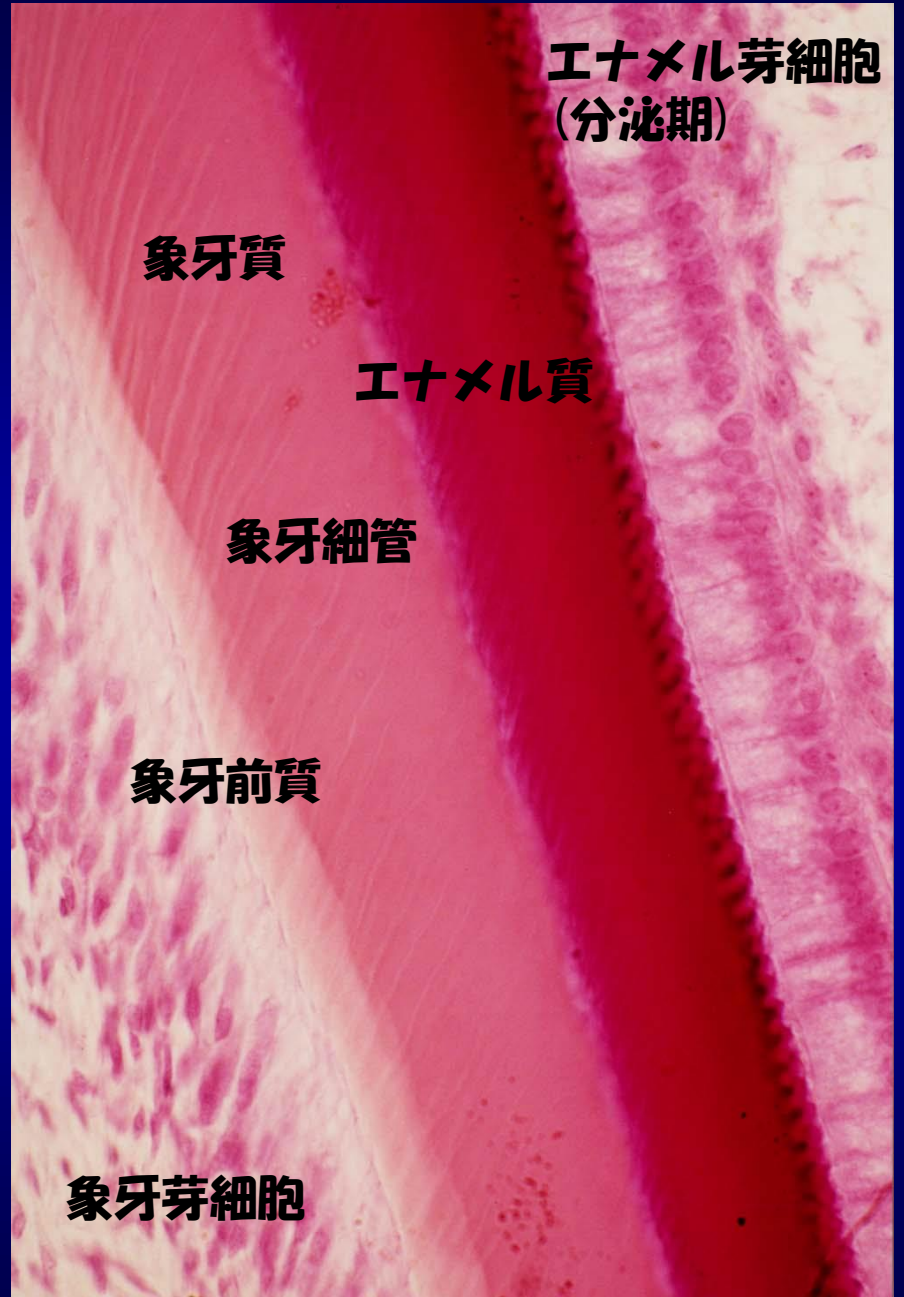
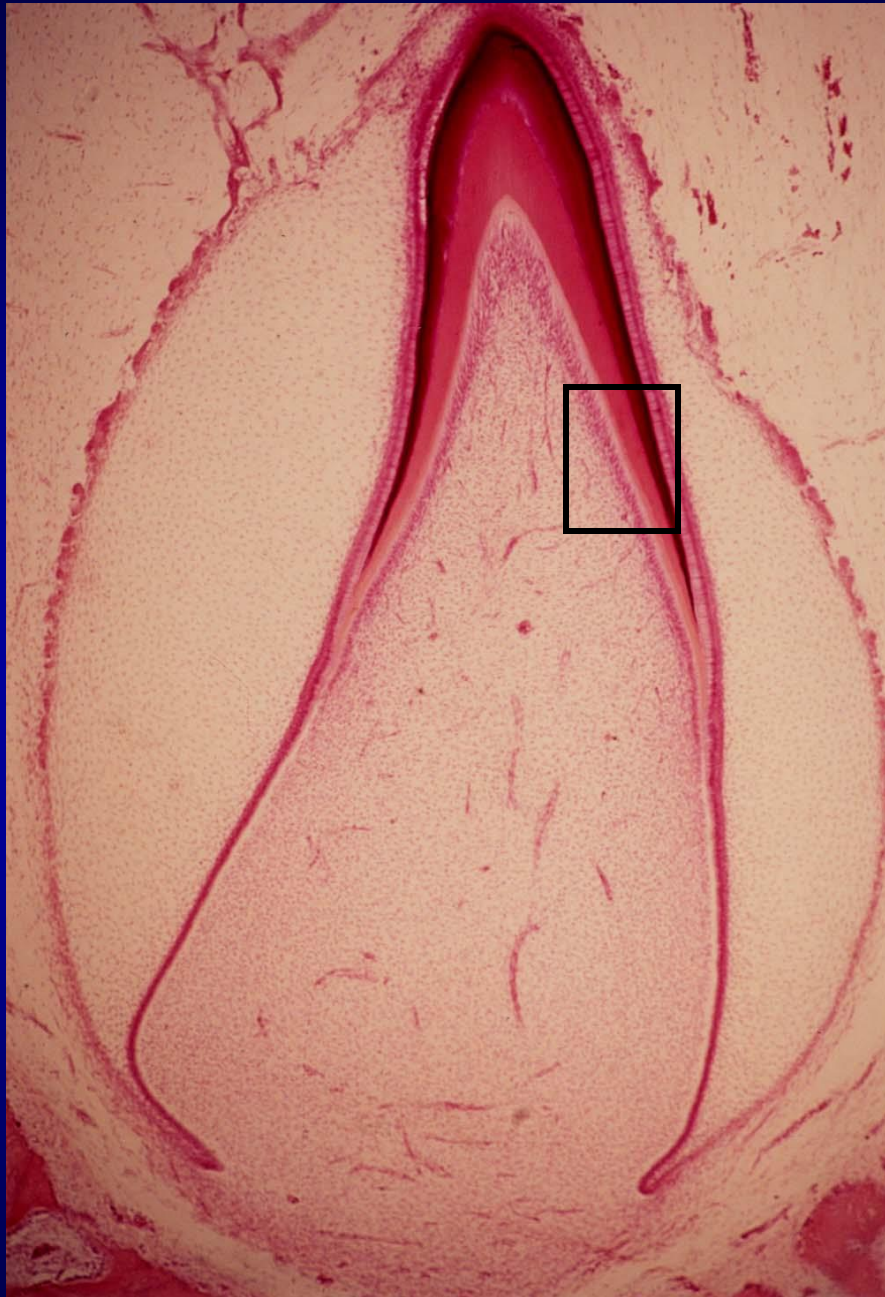


象牙芽細胞

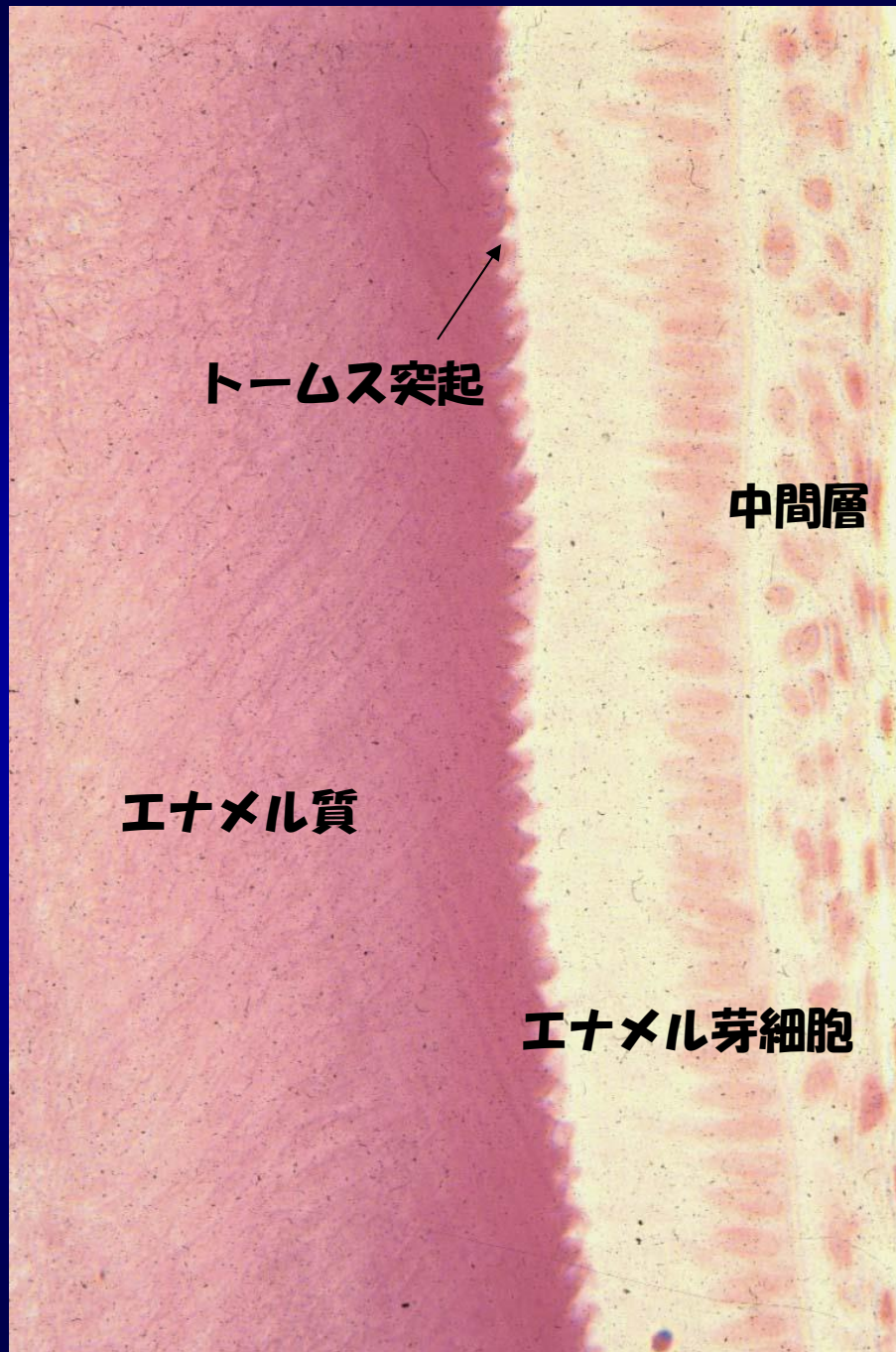
前エナメル芽細胞

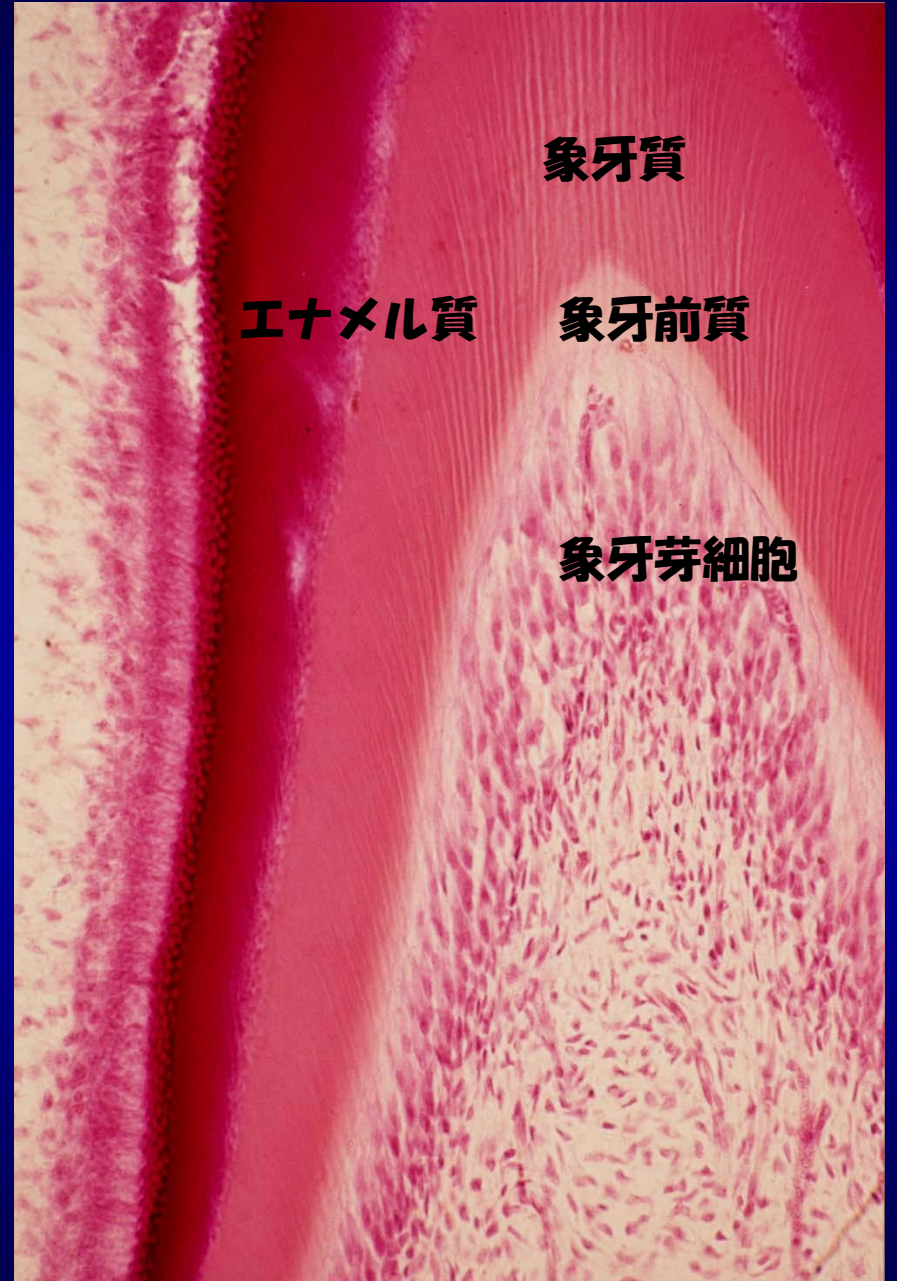
内エナメル上皮





分泌期エナメル芽細胞







乳頭層 (papillary layer)

保護期エナメル芽細胞
(protective stage)

エナメル質
(脱灰により消失)